令和6年度 第2回甲賀市図書館協議会 会議録

1. 日 時：令和6年11月22日（金） 午後7時～午後8時45分

2. 場 所：甲南図書交流館 視聴覚ホール

3. 出席者：【委員】 大西 正泰 地村 千里 山添 智子 山崎喜代美
中村ひろ子 山中 ルミ 松岡 和子 平林 秀樹
【事務局】 前田次長 伊東課長 上村参事 香取館長
井口(敏)館長 井口(正)館長 篠原館長 片岡館長
小嶋主査 吉田主査
【傍聴者】 なし

4. 次 第

(1) 開会

(2) 市民憲章の唱和

(3) 会長あいさつ

(4) 協議事項

①令和6年度事業の経過報告について

②令和6年度図書館評価（令和5年度分内部評価）について

③次期計画策定にかかるパブリックコメント実施について

(1) 甲賀市図書館サービス計画第3次計画

(2) 甲賀市子ども読書活動推進計画第4次計画

(5) その他

貴生川駅周辺社会実験における図書館からの参加について

5. 内 容

(1) 開会

(2) 市民憲章の唱和

教育委員会事務局 前田次長あいさつ

(3) 会長あいさつ

・図書館まつりを通じて、我々市民と図書館との関係性について考えたことをお話しする。

10月に開催された図書館まつりは、多くの来場者を迎え大盛況であった。

図書館には集客のポテンシャルがあることを改めて認識した。今回は市制20周年記念事業として開催されイベントも盛りだくさんだったが、今後も常に同じように開催することは図書館側だけでは難しいと考える。図書館は本を貸し出す場所だけでなく、市民の集う場所やまちづくりの拠点といった多様化が求められる今、一市民として図書館と一緒にイベントをやっていくボランティアが今後さらに重要になってきていると考える。そこで他ではどんな図書館ボランティアをされているのか2冊の本で調べてみた。ひとつは『図書館パートナーズのつくり方』という本。

これは東京にある「ひきふね図書館」の例。図書館利用者が図書館のイベントを企画して実行するというワンランク上のボランティアの話でたいへん興味深く、こういうものが求められているのだと強く感じた。もうひとつは『ブックフェスタ』という本。これは、図書館を離れて地域で本を並べて、ちょっとした本箱や本のある場所をつくり、そこに人が集うことでまちづくりの拠点にするというもの。マイクロライブラリーと呼ばれている。

私自身もビブリオサポーターとしてビブリオバトルを実施するボランティアをしているが、限られたメンバーでどうしても限界がある。そこで私自身も思い立ち、甲賀市図書館友の会なるものの募集を始めた。これには市民が図書館のパートナーとなり、さらには企画までする、図書館を使って何かをやってやろうというような市民の力を結集できればという思いがある。

単なる思いつきではなく、実現するぞという私自身の決意表明と、一緒にやっていただける方をぜひ紹介していただけたらという思いでお話させていただいた。

(4) 協議事項

①令和6年度事業の経過報告について

[事務局から説明]

(図書館事業継続のほか、図書館まつり開催や郷土資料室「忍」開室等を説明)

委員：図書館まつりの忍者トーク合戦（甲賀忍者VS伊賀忍者）では県外からも来場され関心の深さが窺えた。トーク内容も楽しく勉強になった。

委員：図書館まつりの対面朗読も、取組内容が分かりよかった。子どもさんも来場されていた。やりたいと思っていながら一步を踏み出せずにいる人たちにとってもたいへん良い機会であったと思う。今後活性化してくることを期待したい。

会長：今回の図書館まつりでは、図書館ボランティア活動に光が当たった。ボランティア紹介も掲示され、自分の団体以外の活動を知ることができた。今後も機会あればこういった紹介展示をしてほしい。

委員：たしかに、自分の活動以外は知らない部分もあり、展示を見てよくわかった。

事務局：展示方法や開催ノウハウなど手探りで実施した。この経験を生かして次になげてまいりたい。

②令和6年度図書館評価（令和5年度分内部評価）について

[事務局から説明]

委員：図書館職員のレベルアップの取り組みとして「研修への計画的な参加」とあるが、正規職員のほか会計年度任用職員も含むのか。

事務局：研修対象職員の区分による。図書館独自研修は全員対象である。

委員：「職場内での専門研修」に「先進地視察研修」とあるが、具体的にどんな研修をされたのか。

事務局：昨年度から始まった人事課による主査研修に、図書館職員も参加したもの。

これは全庁の主査級職員がグループ毎に研修目的や研修先を決めて出張・発表という一連の研修をするもので、令和5年度は3名が愛知県安城市立図書館へ、1名が別の研修に参加した。

委員：安城市立図書館はどんなところが良かったのか。

事務局：最新の図書館で複合施設の中にある。1階はイベント用の交流多目的スペース、2階から4階が図書館。おしゃべりが出来て飲食自由。ビジネス支援コーナーや子育て支援センターも図書館内にある。またこの図書館では全国誰でもカードが作れる。

委員：石川県立図書館に行ったことがある。そこも工夫されていて良かった。

委員：研修後の発表は誰でも聞けるのか。

事務局：市役所内での職員向け発表であった。

③次期計画策定にかかるパブリックコメント実施について

(1) 甲賀市図書館サービス計画第3次計画

(2) 甲賀市子ども読書活動推進計画第4次計画

[事務局から説明]

会長：パブリックコメントは、提示された案がこのまま公開されることになる。

図書館としては、どういうコメント、注目点を想定しているのか。

事務局：子ども読書活動推進計画において特に意見が出ると思う。

会長：確認したいのだが、「全校一斉読書活動を実施している学校」は現状100%。

一方「1か月に1冊も読まなかった児童生徒」が現状児童9%、生徒19%となっている。朝読書があると思うが、これはカウントされていないのか。

事務局：指標の設定のうち当該部分は学校教育課から示された数値である。

会長：1冊も本を読まない児童をなくすために朝読書をされているはずで、読書に積極的でない子や、読んだ気になっていない児童生徒の数がこの数字に表れているのかもしれないが、学校側から示された数値に対して、背景や改善について投げかけるのも図書館の役目だと考える。

委員：同じ指標設定のところにある「学校図書館図書標準」で中学校は0%とあるが、これは何か。

事務局：用語解説にあるように、文科省が定めた学校図書館の蔵書冊数のことである。

学校図書館リニューアルを行い、徐々に充実しつつある。

委員：中学校の数値が現状0%ということは、どの中学校にも学校図書館はあるが、冊数において標準に達している学校がないということかと考える。

事務局：冊数が達成していればよいのかといえば必ずしもそうではなく、適切な除籍や補充によってより良い学校図書館として達成することが大事。

会長：学級数も減りつつあり、今後変わってくる数値かとは思う。学校図書館として果たすべき本質とは違う気もしている。

事務局：数年前は標準を満たしている学校もあった。除籍をすすめることで蔵書数が減り未達成となったもの。除籍した本は学校の図書館から教室に移動させて、

いつでも読めるようにしており読書環境としては整えたことになるのだが、学校図書館における蔵書冊数目標としては達成していない状況となったものである。

(5) その他

貴生川駅周辺社会実験における図書館からの参加について

[事務局から説明]

会 長：期間中、図書館からの参加が2日間あり、その中でビブリオバトルも行う。

事務局：参加ターゲットは子どもたちやその保護者。読書の入口としてマンガも重要な役割があることから、まず気軽に読める図書としてコミックエッセイを選定している。

(6) 閉会

副会長あいさつ

・「ちえなみき」という、敦賀市に2年前に開業された知育・啓発施設の話を聴く機会が先日あった。そのことをお話しする。

北陸新幹線が延伸されたJR敦賀駅前にあり、3万冊以上の新刊、古書、洋書が並ぶ書店で、2階から見下ろすと本棚の配置が樹木のようにになっている棚づくりが特徴。丸善と編集工学研究所の共同企業体が指定管理者として運営する全国初の公設民営書店。コンセプトは、本を通じて人と地域と世界が繋がること。

当時、編集工学研究所長であった松岡正剛（せいごう）さん、代表作『千夜千冊』で有名な方だが、その編集工学研究所と丸善との共同経営によるユニークな書店。館内には地域のお茶屋さんも出店されており、本とお茶の時間が楽しめる。まだ行ったことはないが、皆さんも敦賀に行かれるチャンスがあればぜひ訪れてみてはいかがか。